

あかるく かしこく たくましく

令和6年5月1日 No. 5 文責：校長 佐野紳二

「聴く」ことの大切さ

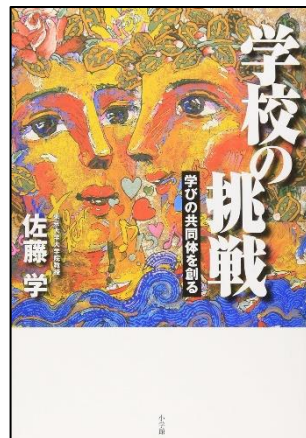
先週末に実施した授業参観，PTA総会・学年部会には多くの保護者の皆様にご来校いただき，ありがとうございました。どのクラスでも，ちょっぴり恥ずかしそうにしながらもいつも以上に張り切っている子どもたちの姿がとても印象的でした。授業参観のあとで行われた各学年の部会資料には，学年目標や学習内容，それぞれの学年の子どもの発達段階上の特徴，会計についてなどが書かれていたかと思います。

校長もすべての学年の資料に目を通しています。

本校の学年部会資料の特徴として，どの学年も学習のところで「聴く」ということを重視していると書かれていることが挙げられるかと思います。今日はこの「聴く」ということについて書かせていただきます。

小笠原小学校の「聴く」は「学び合い」から

小笠原小学校で，学習の基盤をなすものとして「聴く」ことが重視されているのは，本校の校内研究で「学び合い」をテーマに設定した時に，現在，東京大学名誉教授を務めている教育学者・佐藤学氏の「学びの共同体」の考えを参考にしたこと由来する*¹と思います。佐藤氏の提唱する「学び合い」では，しつとりと落ち着いた雰囲気の中で，仲間の発言に耳を傾けることが特に重視されています。他にも「コの字型の座席」や「男女が市松模様に並ぶ座席の配置」，「背伸びとジャンプのある課題」など，同氏の理論に基づく学習にはいくつかの特徴がありますが，現在では「聴く」ことと「学習課題の設定の重要性」が小笠原小学校にも残っているという印象があります。*²



* 1…私が小笠原小学校で学級担任をしていた頃，佐藤氏の書籍を教職員みんなで購入し，校内研究の中で本を読み合い，その理論に基づいて授業実践をしていました。

* 2…これはあくまでも校長の私見です。大きく違ってはいないと思いますが，先生方一人一人によって多少捉え方は違うかもしれません。

「聞く」と「聴く」

本校の学年部会資料では，「きく」という言葉が意図して「聞く」ではなく「聴く」と書かれています。言葉的には「聞く」と「聴く」には次のような違いがあります。

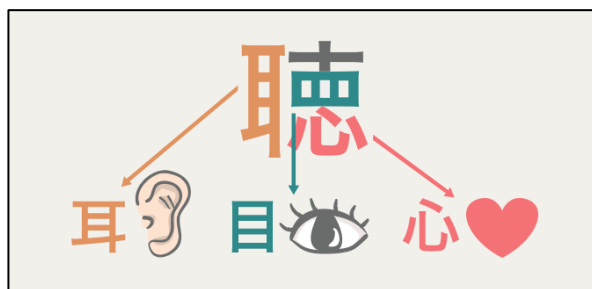
【聞く】音や声を耳に感じ認める。

【聴く】聞こえるものの内容を理解しようと思って進んでいく。

類語国語辞典（角川書店）

また，広辞苑には，「広く一般には『聞く』を使い，注意深く耳を傾ける場合に『聴く』を使う」と記載されています。

子どもたちに説明するときには，「『聴く』という字には『目』と『耳』と『心』という字が入っています。友だちの話を聴くときは『目』と『耳』と『心』を使って聴きましょう。」なんて説明する先生が多いかも知れません。「注意を傾けてしっかりきく」という意味で，あえて「聴く」と記載しているわけです。



「目」と「耳」と「心」で「聴く」

「傾聴」について

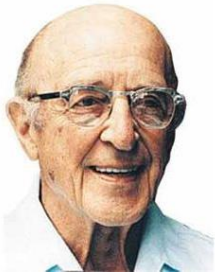
「聴く」ことの大切さについては、さまざまな育児書や教育書、カウンセリングについて書かれた本など、いろいろと見ることができるとおもいます。「何かやっても手を止めて聴く」「子どもと視線を合わせて聴く」「途中で言葉をはさまないで最後まで聴く」など、聴き方のコツやその理由についてもさまざまと見られるところではないでしょうか。



相手の伝えたいことに深く耳を傾けて話を聴くことを「傾聴」と言います。話し手の「話したいこと・伝えたいこと」に「耳」を傾け、仕草や表情に「目」を向け、どうしてそう考

えるに至ったのか「心」を配って聞くことで、話し手の「話したい」という気持ちを引き出す技法です。この「傾聴」を提唱したのが、アメリカの心理学者カール・ロジャーズ (Carl Rogers) で、もともとはカウンセリングで活用されてきました。

心理学でカウンセリングについて学ぼうとすると、必ずと言っていいほど最初にロジャーズの傾聴 (来談者中心療法) について学びます。多くの人から支持されている考えです。



ロジャーズは話を聴く側に必要な要素を3つ挙げています。

1 共感的理解

相手の話を、相手の立場に立って、相手の気持ちに共感しながら理解しようとする。

2 無条件の肯定的関心

相手の話を善悪の評価、好き嫌いの評価を入れずに聴く。相手の話を否定せず、なぜそのように考えるようになったのか、その背景に肯定的な関心を持って聴く。それによって、話し手は安心して話ができる。

3 自己一致

聴き手が相手に対しても、自分に対しても真摯な態度で、話が分かりにくい時は分かりにくいことを伝え、真意を確認する。分からないことをそのままにしておくことは、自己一致に反する。

カウンセリングの場面でも多くの効果が認められている「傾聴」ですが、子育ての場面でも子どもの話を傾聴することで、以下のような効果があることが報告されています。

1 子どもとの信頼関係が育つ

・親身になった話を聴いてもらうことで、「自分は大切にしてもらえている」と実感できる。

2 子どもとのコミュニケーション能力が向上する

・子ども「伝える力・聴く力」が育ち、コミュニケーション能力が向上する。

3 子どもとの思考が整理され、感情のコントロールが上手になる

・自分の気持ちや経験を言語化することで自分の心を見つめ、感情を整理したり鼓舞したりできる。

4 子どもとの自己肯定感が高まる

・「受け入れられている」「認められている」と実感できることにより、子どもとの自己肯定感が高まる。

5 親が子どもを一個人として認められる

・子どもとの話をじっくり聞くことで、親が子どもの成長を知ることができ、自分とは違う考えを持つ独立した人格なんだと実感できる。

* 次号に続きます。次号では「傾聴するときのポイント」など、もう少し具体的な話をしたいと思います。